



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月4日  
東

上場会社名 株式会社ヨコオ 上場取引所  
 コード番号 6800 URL <https://www.yokowo.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役兼執行役員社長(氏名) 徳間 孝之  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役兼執行役員専務(氏名) 深川 浩一 (TEL) 03-3916-3111  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月4日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	18,926	18.1	1,087	△10.9	3,057	137.5	2,031	121.6
2022年3月期第1四半期	16,021	38.5	1,219	185.7	1,287	271.1	916	278.3
(注) 包括利益	2023年3月期第1四半期 3,616百万円(249.6%)		2022年3月期第1四半期 1,034百万円(224.5%)					
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円	銭	円	銭				
2023年3月期第1四半期	87.16	—	—	—				
2022年3月期第1四半期	40.80	—	40.78	—				

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	70,591	47,442	67.1
2022年3月期	66,870	44,328	66.2
(参考) 自己資本	2023年3月期第1四半期 47,370百万円	2022年3月期 44,272百万円	

## 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2022年3月期	—	18.00	—	22.00	40.00	—
2023年3月期	—	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	23.00	—	23.00	46.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2023年3月期(予想)第2四半期末及び期末配当の内訳 普通配当20円00銭 記念配当3円00銭

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	37,900	22.4	2,700	34.8	3,700	68.0	2,450	60.5	105.10	—
通期	76,000	13.7	7,000	49.4	8,000	22.5	5,500	17.9	235.94	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期1Q	23,849,878株	2022年3月期	23,849,878株
2023年3月期1Q	538,828株	2022年3月期	538,808株
2023年3月期1Q	23,311,055株	2022年3月期1Q	22,473,952株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の本資料に記載されている業績見通し等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における売上高は、車載通信機器及び無線通信機器セグメントが前年同期比でほぼ横ばいの推移となりましたが、回路検査用コネクタセグメントが大幅な増収となった結果、18,926百万円(前年同期比+18.1%)となりました。営業損益につきましては、回路検査用コネクタセグメントが前年同期比で大幅な増益となりましたが、無線通信機器セグメントが減益となったほか、車載通信機器セグメントが物流費の高止まりや原材料価格高騰の継続、円安などに伴うコストアップの影響を受けて損失となった結果、1,087百万円の利益(前年同期比△10.9%)となりました。経常損益につきましては、為替差益1,916百万円を計上したことなどにより、3,057百万円の利益(前年同期比+137.5%)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、経常増益などにより、2,031百万円の利益(前年同期比+121.6%)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ① 車載通信機器

当セグメントの主要市場である自動車市場は、世界的な半導体不足・部品供給停滞などの影響が前期より継続したことにより、自動車メーカー各社の生産が停滞しました。地域別では、米国市場において在庫不足の影響で販売台数が前年同期比で減少したことに加え、中国上海市における新型コロナウイルス感染拡大に伴うロックダウンの影響などにより、中国/日本国内市場でも前年同期を下回りました。

このような状況の中、主力製品であるシャークフィンアンテナ/GPSアンテナをはじめとする自動車メーカー向けアンテナの海外販売は円安効果により増加したものの、国内販売は減少しました。

この結果、当セグメントの売上高は10,281百万円(前年同期比+1.0%)と、前年同期比でほぼ横ばいとなりました。セグメント損益につきましては、前期に引き続き海上運賃の高騰などによる物流費増、現地通貨高に伴う中国/ベトナム生産拠点における労務費などの増加、原材料価格上昇によるコストアップ、円安による在庫評価額増に伴う未実現利益控除大幅増などにより、1,201百万円の損失(前年同期は1百万円の利益)となりました。

#### ② 回路検査用コネクタ

当セグメントの主要市場である半導体検査市場は、テレワーク拡大などに伴うハイエンドPC向けやサーバー向け需要が増加したことに加え、クラウドサービス向け/スマートフォン他電子機器向け半導体の需給逼迫により、検査需要は極めて旺盛な状況が続いています。

このような状況の中、当社グループの主力製品である半導体後工程検査用治具の販売は、ロジック半導体検査用ソケット・高周波検査対応ソケットの旺盛な受注増及び新規量産立上げ、円安効果などにより、前年同期を上回りました。半導体前工程検査用治具の販売は、周辺機器を含めてワンストップソリューションでサービスを提供するターンキービジネスが一時的に減速したものの、高周波電子部品検査用MEMSプローブカード(YPX)の販売は、5G対応スマートフォンの普及を背景に受注が増加し、前年同期を大幅に上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は6,203百万円(前年同期比+82.5%)と、前年同期比で大幅な増収となりました。セグメント損益につきましては、原材料価格上昇によるコストアップや能力増強に伴う固定費増があったものの、増収及び円安に伴う増益などにより、2,026百万円の利益(前年同期比+162.7%)となりました。

#### ③ 無線通信機器

当セグメントの主要市場である携帯通信端末市場は、スマートフォンの販売が減少傾向にある一方、ウェアラブル端末は多様化・高機能化により今後の成長が見込まれています。POS端末市場は、物流/製造を始めとする幅広い業界において、情報管理による業務効率化実現の観点から着実な成長を続けているほか、産業機器などの他市場も成長が期待されています。

このような状況の中、微細スプリングコネクタを中核製品とするファインコネクタ事業におきましては、半導体不足の影響や新型コロナウイルス感染再拡大による顧客の生産調整などの影響により、POS端末向けやワイヤレスイヤホンなどウェアラブル端末向けの販売が減少したことなどから、売上高は前年同期を下回りました。

当セグメントに含めておりますメディカル・デバイス事業につきましては、主要顧客向け部品販売・ユニット製品販売がともに堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は2,440百万円(前年同期比+0.1%)と、前年同期比で横ばいとなりました。セグメント損益につきましては、ファインコネクタ事業における減収に伴う減益に加え、人民元高などによる中国生産拠点における労務費比率の上昇、事業構成変化などにより、262百万円の利益(前年同期比△41.3%)となりました。

## (事業セグメント別連結売上高)

(単位：百万円、%)

	前第1四半期 自 2021年4月 至 2021年6月	前四半期 自 2022年1月 至 2022年3月	当第1四半期 自 2022年4月 至 2022年6月	前年同期比	前四半期比
	売上高	売上高	売上高	増減率	増減率
車載通信機器	10,184	10,994	10,281	+1.0	△6.5
回路検査用コネクタ	3,400	4,816	6,203	+82.5	+28.8
無線通信機器	2,437	2,308	2,440	+0.1	+5.7
合計	16,021	18,120	18,926	+18.1	+4.4

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産は、現金及び預金増加1,487百万円、売上債権増加164百万円、棚卸資産増加616百万円、有形固定資産増加817百万円などにより、70,591百万円(前連結会計年度末比3,720百万円の増加)となりました。現金及び預金の増加は、円安に伴う円貨換算額増加及び回路検査用コネクタセグメントにおける売掛金回収増加によるものです。また、有形固定資産の増加は、回路検査用コネクタセグメントにおける受注増に対応した国内・マレーシア工場の生産設備増強及び車載通信機器セグメントにおけるフィリピン工場稼働開始に伴う生産設備導入などによるものです。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、未払法人税等減少407百万円がありましたが、短期借入金増加300百万円、その他流動負債に含まれる賞与未払金増加641百万円などにより、23,148百万円(前連結会計年度末比606百万円の増加)となりました。短期借入金の増加は、円安に伴う外貨建て借入金の円貨換算額増加によるものです。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、為替換算調整勘定増加1,454百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益2,031百万円の計上、配当金の支払512百万円などにより、47,442百万円(前連結会計年度末比3,113百万円の増加)となりました。

## (自己資本比率)

当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は67.1%(前連結会計年度末比+0.9ポイント)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績見通しにつきましては、予想の前提となる条件を次のとおり想定しております。

- ・新型コロナウイルス感染症は依然として収束の兆しが見えず、予断を許さない状況が続くと予想されますが、当社生産拠点におきましては感染防止対策を最重点として徹底することにより、安定稼働できるものと想定しております。
- ・当社の主要市場である自動車市場につきましては、世界的な半導体不足・部品供給停滞の影響が上期中は継続するものと想定しております。
- ・半導体検査市場につきましては、テレワーク拡大などに伴うハイエンドPC向けやサーバ向け需要の増加により旺盛な受注が続いておりますが、スマートフォンの販売が減少傾向にあるなど懸念材料が出てきており、高水準ながら伸びは鈍化するものと想定しております。
- ・携帯通信端末市場につきましては、スマートフォンの販売が減少傾向にあるほか、世界的な半導体不足の影響によるPOS端末など電子機器端末の伸び悩みが見込まれ、当期中は継続するものと想定しております。
- ・先端医療機器市場につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療現場の逼迫は、国内は再び強まっている一方、海外はワクチン接種の進展と各国のウィズコロナへの方針転換などにより緩和され、需要は横ばいになるものと想定しております。

このような前提のもと、第2四半期連結累計期間(上期)と通期の売上高及び各利益は次のとおり見込み、下表のとおり修正いたします。

なお、下記の業績予想の前提となる為替レートは、本年8月以降当期末まで1米ドル=130円(前回予想時は1米ドル=120円)としております。

## ① 第2四半期連結累計期間(上期)

売上高につきましては、当第1四半期連結累計期間の実績及び直近の受注見通しを踏まえ、全社売上高及びセグメント別売上高を下表のとおり修正いたします。

営業利益につきましては、回路検査用コネクタセグメントにおいて増収及び円安効果に伴う増益が見込まれる一方で、車載通信機器セグメントにおいて、物流費や原材料価格高騰による急激なコストアップに対する販売価格の見直しは交渉中であることから上期では見込まず、下表のとおり修正いたします。

経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益については、想定為替レート1米ドル=130円の下、為替差益1,000百万円を見込み、下表のとおり修正いたします。

## ② 通期

売上高につきましては、下期において回路検査用コネクタセグメントの増収が見込まれるものの、車載通信機器及び無線通信機器セグメントの受注見通しを踏まえ、下表のとおり修正いたします。

営業利益につきましては、車載通信機器セグメントにおいて、生産現場における原価低減活動及び販売価格の見直しによる損益改善を下期から見込むほか、回路検査用コネクタセグメントにおいて増収に伴う増益が見込まれることから、下表のとおり修正いたします。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益については、想定為替レート1米ドル=130円の下、下期での為替差損益は発生しないものと見込み、下表のとおり修正いたします。

第2四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年9月30日)

(単位：百万円、%)

	前回予想 (2022年5月13日公表)	修正予想	増減	増減率
売上高	33,700	37,900	+4,200	+12.5
車載通信機器	18,500	20,500	+2,000	+10.8
回路検査用コネクタ	10,500	12,600	+2,100	+20.0
無線通信機器	4,700	4,800	+100	+2.1
営業利益	2,700	2,700	—	—
車載通信機器	△425	△2,000	△1,575	—
回路検査用コネクタ	2,550	4,200	+1,650	+64.7
無線通信機器	575	500	△75	△13.0
経常利益	2,400	3,700	+1,300	+54.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,650	2,450	+800	+48.5

通期(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：百万円、%)

	前回予想 (2022年5月13日公表)	修正予想	増減	増減率
売上高	73,000	76,000	+3,000	+4.1
車載通信機器	41,000	41,600	+600	+1.5
回路検査用コネクタ	21,500	24,800	+3,300	+15.3
無線通信機器	10,500	9,600	△900	△8.6
営業利益	7,000	7,000	—	—
車載通信機器	0	△2,000	△2,000	—
回路検査用コネクタ	5,600	8,000	+2,400	+42.9
無線通信機器	1,400	1,000	△400	△28.6
経常利益	6,700	8,000	+1,300	+19.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,700	5,500	+800	+17.0

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,816	15,304
受取手形及び売掛金	13,057	13,222
商品及び製品	8,900	9,021
仕掛品	742	639
原材料及び貯蔵品	6,037	6,636
その他	1,992	2,277
貸倒引当金	△8	△9
流動資産合計	44,540	47,092
固定資産		
有形固定資産	16,544	17,361
無形固定資産	1,162	1,231
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	680	700
その他	3,942	4,205
投資その他の資産合計	4,623	4,905
固定資産合計	22,330	23,498
資産合計	66,870	70,591
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,991	7,902
短期借入金	5,570	5,870
未払法人税等	1,476	1,069
賞与引当金	871	583
その他	4,274	5,234
流動負債合計	20,184	20,659
固定負債		
長期借入金	1,600	1,600
退職給付に係る負債	368	372
その他	388	515
固定負債合計	2,357	2,488
負債合計	22,541	23,148
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,819	7,819
資本剰余金	7,804	7,804
利益剰余金	25,950	27,479
自己株式	△634	△634
株主資本合計	40,939	42,468
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	430	559
為替換算調整勘定	2,635	4,089
退職給付に係る調整累計額	267	252
その他の包括利益累計額合計	3,332	4,901
非支配株主持分	56	71
純資産合計	44,328	47,442
負債純資産合計	66,870	70,591



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	16,021	18,926
売上原価	12,872	15,404
売上総利益	3,149	3,521
販売費及び一般管理費	1,929	2,434
営業利益	1,219	1,087
営業外収益		
受取利息	4	6
受取配当金	19	30
持分法による投資利益	9	1
為替差益	49	1,916
その他	8	57
営業外収益合計	92	2,012
営業外費用		
支払利息	12	16
新株予約権発行費	6	—
その他	6	25
営業外費用合計	25	42
経常利益	1,287	3,057
特別利益		
固定資産売却益	1	1
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産売却損	1	—
固定資産除却損	2	9
特別損失合計	3	9
税金等調整前四半期純利益	1,285	3,048
法人税、住民税及び事業税	205	930
法人税等調整額	159	78
法人税等合計	364	1,009
四半期純利益	920	2,039
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	7
親会社株主に帰属する四半期純利益	916	2,031



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	920	2,039
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	52	129
為替換算調整勘定	83	1,462
退職給付に係る調整額	△22	△14
その他の包括利益合計	113	1,576
四半期包括利益	1,034	3,616
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,030	3,601
非支配株主に係る四半期包括利益	3	15

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			
	車載通信機器	回路検査用 コネクタ	無線通信機器	計
売上高				
日本	3,644	420	610	4,675
欧米	4,213	637	221	5,072
アジア	2,325	2,342	1,604	6,273
顧客との契約から生じる収益	10,184	3,400	2,437	16,021
外部顧客への売上高	10,184	3,400	2,437	16,021
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	10,184	3,400	2,437	16,021
セグメント利益	1	771	447	1,219

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と同額となっております。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			
	車載通信機器	回路検査用 コネクタ	無線通信機器	計
売上高				
日本	3,038	445	755	4,240
欧米	4,680	1,019	247	5,947
アジア	2,562	4,738	1,438	8,739
顧客との契約から生じる収益	10,281	6,203	2,440	18,926
外部顧客への売上高	10,281	6,203	2,440	18,926
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	10,281	6,203	2,440	18,926
セグメント利益又は損失(△)	△1,201	2,026	262	1,087

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と同額となっております。